

# 槐

かい

岡井省二創刊

令和4年6月号

令和四年六月一日発行 第三十二巻第六号 通巻五百三十七号 (毎月一日発行)  
平成二年九月十八日第三種郵便物認可



# 芽吹き

高橋将夫

春 大根 一本 残る 広さ かな  
あ の 頃 を 忘 れ ぬ 都 忘 れ かな  
薔 薇 の 芽 に た だ よ ふ オ リ エ ン タ ル な 夢  
来 る 来 ない こ ち ら か ら 行 く チ ュ ー リ ッ プ

方舟にひそむウイルス涅槃西風  
己がじし葉の芽花の芽枝芽かな  
連翹を伝ひ黄色の雨滴  
沈丁のかをりただよふ写真かな  
選別の基準は愛情種選ぶ  
蓋取れば暗渠にも吹く春の風  
野を行けば老いの心に芽吹くもの

# 日月抄

高橋将夫 推薦

せ せ ら ぎ は 佐 保 姫 た ち の 燥 ぎ 声	春 潮 の 滑 ら か に 引 く 眠 り 際	親 が 泣 き 先 生 が 泣 き 卒 園 す	初 蝶 の 大 樹 に 留 ま り 花 と 化 す	鷹 鳩 と 化 す や 吾 が 身 を い た は り て	芽 吹 く 色 豊 か に 深 め 森 動 く	黄 砂 ふ る 太 古 の ベ ー ル 広 が り し	白 鳥 は も う バ イ カ ル に 戻 ら な い
三 木 亨	橋 本 順 子	中 島 昌 子	井 上 静 子	中 貞 子	阪 倉 孝 子	柴 田 靖 子	出 利 葉 孝

悪い夢飛んでけと干す布団かな  
竹村 淳

注連縄に絡んでをりぬ蜂の針  
中西 厚子

溜息も欠伸も春の肥やしとも  
高野 昌代

昔昔何飛び出すや春ごたつ  
久保 夢女

行き方は来し方なりぬ春愁ひ  
阿部 さちよ

啓蟄やふさぎの虫を閉じ込める  
時 澤 藍

春愁のモディリアーニの女かな  
柳 橋 繁子

長き夜の吾が心音だけの静寂  
安 野 眞澄

水張れば目覚めし春の柵田かな  
孫 野 秀子

# 槐集

高橋将夫選

白鳥はもうバイカルに戻らない

大阪 出利葉 孝

水彩の下塗りのごと浅き春

白梅や清楚と言はる柳重し

カーテンに透けて見ゆるや浅き春

からからの心潤す雨水かな

春愁や目覚めれば幻なりし

岡崎 柴田 靖子

山笑ふ耳をすませば木々の声

春の水あまたの声をつれゆきし

黄砂ふる太古のべール広がりし

のんびりと波のんびりと長閑なり

芽吹く色豊かに深め森動く

枚方 阪倉 孝子

初音きくこころの鏡光りける

家中へ春灯しけりバースデー

心の鈴鳴らして待つは花便り

貝寄風の耀うてをり石舞台

茶柱の立つや弥生の雨あがる  
枚方 中 貞子

山城へ続く産土いぬふぐり  
頂の近づいてくる花の山

鷹鳩と化すや吾が身をいたはりて

青鷺の足元小川の光りける

初蝶の大樹に留まり花と化す  
枚方 井上 静子

帯揚げの縮緬ゆかし花馬酔木

人の声俄かに聞こゆ牡丹の芽

蝌蚪一尾ちよつとつまむや放免す

菜の花の風と香りを持ち帰る

海の色こぼし玉筋魚量らるる  
枚方 中島 昌子

さざ波にほどけ初めたる菖蒲の芽

飛び交へるシャトルコックの春光に

親が泣き先生が泣き卒園す

夕暮れの包みきれざる櫻かな